

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
進学講習（英語）	2	3年I類	希望者
授業担当者	教科書名		副教材等
三宅啓温	英文法・語法 Engage（いいずな書店）		大学入試過去問題、センター試験過去問題

<b>科目の到達目標</b>
実際の大学入試過去問題の演習を通して、受験に対応できる文法・語法・イディオム・会話表現の総合的な英語力の定着を図る。

<b>評価の観点と方法について</b>
出席状況と積極的な授業参加、および課題や小テストへの取り組みなどをもとに、総合的に評価する。

	月	学習単元・項目	ねらい	方法・活動
一 学 期	4	入試過去問題演習 1  ・ 形容詞の語法 ・ 副詞の語法 ・ 動詞を中心としたイディオム	これまでに学習してきた文法事項に加え、以下の語法習得を目指す  ・ many / much, enough / some, few / little ・ 数や量の表し方 ・ 分詞形容詞 ・ 人が主語の場合には用いない形容詞 ・ 補語として用いられる形容詞 ・ 位置によって意味が異なる形容詞 ・ 意味や語順に注意する形容詞 ・ ago / before, already / still / yet, hardly / scarcely / almost / barely, either / neither ・ 否定文や疑問文で用いる副詞 ・ 名詞と間違えやすい副詞 ・ 動詞を中心としたイディオム	入試過去問題演習を通して、様々な英語の語法を身に付ける。  客観問題には、マークリーダーを利用し、正答率が低い問題を、重点的に解説する。
	5			
	6	入試過去問題演習 2  ・ 名詞・代名詞を用いたイディオム ・ 前置詞を用いたイディオム	・ there is no ... / there is nothing ・ 名詞・代名詞を用いたイディオム ・ 前置詞を用いたイディオム ・ 様々な会話表現（挨拶・感想や気持ち・相手への依頼・mind を用いた質問と応答・相手を心配したときの問いかけ・食事やショッピング・電話・ことわざなど） ・ 意外な意味が問われるボキャブラリー ・ 紛らわしいボキャブラリー	
	7	・ 会話・表現 ・ ボキャブラリー		

	月	学習単元・項目	ねらい	方法・活動
二 学 期	9	入試過去問演習3  ・発音 ・アクセント	これまでに学習してきた文法事項に加え、以下の語法習得を目指す  ・母音の発音、注意すべき2文字の発音 ・アクセントのある母音字+rの発音 ・注意すべき3文字の発音 ・子音の発音 ・語尾を見るだけで分かるアクセントの位置 ・日本語になっている英語 ・語尾のルールがあてはまらない語 ・名詞と動詞でアクセントの位置が変わる語	入試過去問題演習を通して、様々な英語の語法を身に付ける。  センター試験過去問題、各自の志望校の大学入試過去問題演習など。
	10			
	11	大学入試対策①	各受講生の志望大学の過去問題が解ける	
	12			
三 学 期	1	大学入試対策②	センター試験問題、希望大学の出題傾向に類似した入試問題が解ける	各受講生の志望大学入試過去問題演習。
	2			
	3			
<b>【その他(履修上の留意点・大学等進学のための学習など)】</b> 各受講生の志望大学合格に向けて、実際のセンター試験過去問題や大学入試過去問題の演習を通して、集大成となる英語力を培えるよう、最善を尽くしサポートさせていただきます。夢実現に向けて、お互いに、たゆまぬ努力を続けましょう！				

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
講習 (英語基礎)	2	3年I類A,B,C型	選択
授業担当者	教科書名		副教材等
窪	Vision Quest English Expression II 英検準2級集中ゼミ		ハンドアウトを作成

<b>科目の到達目標</b> 既習の英文法の練習問題をしっかりと行うことで、基礎の定着を図る。 培った基礎力を英検の問題で発揮できる。

<b>評価の観点と方法について</b> 授業に積極的に取り組んでいるか。 学習した内容が定着しているか。 学習で培った英語の基礎力を英検問題で応用できるか。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
一 学 期	4	教科書の内容の復習及び定期テスト対策	授業で学習した内容を反復練習し、英文法の基礎を固める。 発音練習を繰り返し、英文の形を覚える。	普段の授業への理解度を問題演習で確認し、必要に応じて解説する。
	5			
	6			
	7			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法
二 学 期	9	1. 短文の語句空所補充（単語①）	基本的な解法と単語を知る。	問題演習と解説
		2. 短文の語句空所補充（熟語①）	基本的な解法と熟語を知る。	
		3. 短文の語句空所補充（文法①）	不定詞、分詞、動名詞の基礎を固める。	
	10	4. 会話文の文空所補充①	2つの出題パターンを知る。	
		5. 短文中の語句整序①	選択肢から熟語、会話表現を見つける。	
		6. 長文の語句空所補充①	同じ語の言い換えを知る。	
		7. 長文の内容一致選択①	本文から解答の根拠を見つける。	
	11	8. リスニング①会話の応答文選 択/会話の内容一致選択	対話を的確に聞く。	
		9. リスニング②	トピックの傾向を知る。	
		10. レビューテスト	テストを用いて学習した内容を確認する。	
	12			
三 学 期	1	学年末テスト対策	授業の進度に準ずる。	問題演習と解説
	2			
	3			

**その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）**

この講座では、反復学習を積み重ねて英文の形を覚え、定期テストへの負担を軽減する。さらに、テスト対策で習得した知識を実際に応用する練習として、英検の問題に取り組む。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
国公立対策講習	2	3年 1類 (A・B・C型)	希望選択
授業担当者	教科書名		副教材等
鴻田 勝時 木村 京	国語：センター対策問題集等 英語：適宜ハンドアウト		国語：『古文上達』、『漢文句法・演習ドリル』 英語：ゆめたん、Engage 等

科目の到達目標
国語：センター試験の過去問題や入試過去問題の演習を重ねて学力の充実を図り、入試への実践力を高める。
英語：センター試験において6割以上の正答率を得るため、過去の問題に慣れながら会話や長文の英語を速く読むことができるようになるが目標である。

評価の観点と方法について
国語・英語の出席状況と積極的な授業参加、および課題や小テストへの取り組みなどをもとに、総合的に評価する。

月	学習単元・項目	ねらい	
		ねらい	方法・活動
一 学 期	4 1学期 ・問題演習 ・センター対策問題演習	国語 ・基礎・基本を固め、入試に対応できる力を養う。 ・解答時間を意識して、問題に取り組む。	国語 現代文 ・語彙を増やし、漢字の知識を深める。 古典 ・古文単語や古典文法など基礎を繰り返し確認する。 漢文 ・句法などの基礎を確認する。 ・対句や文の成分から白文の読解ができるようにする。 ※適宜、小テストの実施、課題等を課す。
	5		
	6	英語 ・単語、熟語、文法、構文等入試問題を解くために必要な基礎知識を徹底的に身につける。	英語 ・ゆめたん、Engage、総合英語 be 等を用いて、演習と解説を行う。
7	夏期講習		

	月	学習単元・項目	ねらい	方法・活動
二 学 期	9	2学期 ・入試過去問題集 ・センター過去問題集	国語 ・センターの過去問題の演習を重ねて、学力の充実を図る。 ・解答時間を意識し、その感覚を身につける。	国語 ・問題集や入試過去問題を解くことによって、正しい解答を作成する力を身につける。 ・マークシート形式に慣れ、対応できるよう取り組む。
	10	・センター試験直前対策	・センター試験に向けての総仕上げをする。	・評論・小説・古文・漢文の四問を各二十分のみやすで解けるようにする。
	11		英語 ・センター試験本番の感覚を身に付ける。	英語 ・センター試験の過去問題や類似問題に数多く当たることによって、問題に慣れ、時間の感覚を身につける。
	12	冬期講習		
三 学 期	1	19.20日 センター試験		
	2			
	3			
<p>その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）</p> <p>国語：昨年度より使用している古文・漢文のテキストは適宜活用し、必要であれば持参すること。</p> <p>英語：講習を受けて入れば、成績が上がるものではありません。伸びるかどうかは家や寮でどれくらい自ら取り組むか次第です。</p>				

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
進学講習 (数学 IA・数 B)	2	3年・I類・A, B, C型	選択
授業担当者	教科書名	副教材等	
坂川 八郎	なし	ベーシックスタイル数学演習 IA (数研出版)、自主製作プリントほか	

<p>科目の到達目標</p> <p>・基礎～標準の問題演習で、数学 IA の総復習及び授業の演習を行う。まずは、定義や定理、公式などの基本的な事項もしっかりと確認する。さらに、代表的な標準問題を理解し、解法やテクニックを身に付ける。最終的には医療系のレベル入試問題が十分に解けるようになることを目標とする。受講者の入試の終了後は広く受講者を募集し定期考査対策等を行う。</p>
--

<p>評価の観点と方法について</p> <p>「関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「表現・処理」「意識・理解」の4つの観点に基づいて、平素の学習意欲や学習態度を重要視して、基本的な知識の理解度、技能の習熟度、思考力、表現力を、課題プリント、レポート、小テスト等で評価する。</p>
--

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	数学 IA の問題演習	現在の自分の力を知る。 入試のレベル、到達目標を知る。	県一斉テスト (1月 A, B 型)	予習、復習を行っているか。 授業で学習した問題が、身についているか。 問題を解く力がついてくるか。
	5	式と計算 2次関数 (2次方程式)	基本事項の確認。 基本問題が解けるようになる。	プリントのの解説をしていく。	
	6	図形と計量 (三角比) 場合の数と確率		医療系専門学校の過去問演習	
	7	データ分析 整数の性質 数学 IA の問題演習	学習したことが入試に出題されているこ再確認し、授業を通して問題が解けるようになっていることの実感をもたせる。		
二学期	9	式と計算 2次関数 (2次方程式)	基本～標準問題の確認。 基本問題が確実に解けるようになる。	プリントの解説をしていく。	予習、復習を行っているか。 授業で学習した問題が、身についているか。 問題を解く力がついてくるか。
	10	場合の数と確率 等の数学 IA の問題演習	標準問題が解けるようになる。	医療系専門学校の過去問演習	
	11		1 学期の内容を何度も繰り返す。定着を狙う。	県一斉テスト その他	
	12	数 B 演習	受験が終わった生徒が増えると思われるので基礎学力者を対象に授業の補習を行う。 定期考査対策を行う。		
三学期	1	個別試験対策及び授業演習 (学年末考査)	低学力者対象の学力補充	個別試験問題演習	

<p>その他 (履修上の留意点・大学等進学のための学習など)</p> <p>毎回の授業では、予習してあることを前提とし、問題の解説を進めていく。授業を聞いているだけでは計算力、実力は絶対につかない。やられる勉強ではなく、自ら自発的・積極的に数多くの問題を解くことによって、入試に対応できる力がついてくる。見せかけの勉強は必要ない。質問は歓迎する。自分の目標を定め、それに向かって努力して、確実に実力をつけてもらいたい。</p>
---